

患者安全の世界の動き:世界患者安全行動計画2021-2030と世界患者安全の日

世界患者安全行動計画2021-2030

患者安全は、すべての医療現場で担保されるべき基本的な前提である。しかし、回避可能な有害事象や医療に関連するエラー、リスクは、依然として世界的に患者安全における大きな課題である。これを受けて、2021年の第74回世界保健総会において、「世界患者安全行動計画2021-2030」¹⁾が正式に採択された。

この行動計画は、「医療において害を被る者が一人としておらず、すべての患者が、いつでも、どこでも、安全で敬意にあふれたケアを受けられる世界」をビジョンとして掲げている。回避可能な害を世界的に最大限減らすことを最終目標とし、その実現に向けて7つの戦略目標が設定されている。各目標には5つの具体的な戦略があり、これに基づいて政府、医療施設・サービス提供者、利害関係者、そしてWHO事務局が取り組むべき行動目標が示されている。

この行動計画には、医療施設が実施すべき130を超える具体的な行動項目が含まれている。日本語訳もあるため、これを参考に、日本の医療施設の皆さまも回避可能な害を減らす世界的な取り組みにご協力いただきたい。

世界患者安全の日

世界患者安全の日²⁾(毎年9月17日)は、2019年5月にWHOの最高意思決定機関である世界保健総会において公式に制定された。以来、毎年異なるテーマが掲げられ、そのテーマに基づいて世界中で1年間にわたり啓発イベントが行われている。また、WHOはテーマの実践を促すコミュニケーションツールやガイドライン等の発表も行っている。

2023年のテーマは「患者参画」であり、WHOはこれに基づき「患者安全権利憲章」³⁾を発表した。また、日本人の勝村久司氏にフォーカスした動画(図表1)^{4)★1}を通じて、患者の政策関与の重要性についての啓発活動も行った。

図表1 勝村久司氏の動画



2024年の世界患者安全の日のテーマは、「患者安全のための診断の向上」である。正確でタイムリーな診断が患者安全において重要であることを認識し、「正確に、そして安全に！」というスローガンを掲げて、WHOは診断エラーを大幅に減らすため、世界全体での取り組みを呼びかけている。この取り組みは、システム思考と人間工学に基づいたものであることと、患者やその家族、医療従事者、そして組織リーダーの積極的な関与に基づく多面的なアプローチを前提としている。

日本の医療施設でも、今後1年間にわたって「診断の向上」をテーマにその安全性を推進し、診断エラー削減の世界的規模の協働に参加していただきたい。

(文責:WHO西太平洋事務局 芝田おぐさ)

引用・参考文献

- 1) World Health Organization: 世界患者安全行動計画2021-2030 医療における回避可能な害をなくすために、田中和美, 他監訳, 2021. (https://anzenkanri.showa.gunma-u.ac.jp/wp_web/wp-content/uploads/2024/01/cfb9caff48a48cd94e9e33ec43fe.pdf) [2024.9.20 確認]
- 2) World Health Organization: World Patient Safety Day. (<https://www.who.int/campaigns/world-patient-safety-day>) [2024.9.20 確認]
- 3) World Health Organization: Patient Safety Rights Charter. (<https://www.who.int/publications/i/item/9789240093249>) [2024.9.20 確認]
- 4) World Health Organization Western Pacific Region: Patient engagement: elevating the voices of patients and families for safer care. (<https://www.who.int/westernpacific/news-room/feature-stories/item/patient-engagement--elevating-the-voices-of-patients-and-families-for-safer-care>) [2024.9.20 確認]

★1 1990年に陣痛促進剤を使った出産で長女を失い、医療安全のための市民運動に取り組む